

## インドネシア Case V

### 地震に対する学童の意識向上：インドネシアでの実例

#### 主な内容：

ユーラシアプレート、インド-オーストラリアプレートおよび太平洋プレートと言う 3 つの構造プレートが接する場所に位置するインドネシアでは、地震が頻繁に発生する。学齢期人口が多いことと学校の建物が地震被害を受けやすいことから、学童は地震災害における弱者として分類されるグループの 1 つとなっている。学童が災害被害を受ける危険性を低減するためにインドネシアで構築されている現場レベルの防災手段の 1 つが、地震の危険に対する学童の意識を高めるための教育プログラムである。このプログラムでは、地震とは何か、地震は人間の生活と活動にどのような影響を及ぼすのか、地震の際の危険な状況とはどのようなものか、および、そうした危険な状況で自分の身を守るために何ができるかなどについて、堅苦しくない形式で課外授業の一環として生徒が学ぶことができる。このプログラムは、楽しい実習やゲームをふんだんに取り入れ、生徒と指導者がやり取りをする流れの中で地震への備えに関する様々な事柄について生徒が理解を深められるような構成になっている。

インドネシアの小学校にこのプログラムを実施する適性を備えた指導者をおくための支援策として、一連の指導者養成プログラムが作成され、実施されている。この指導者養成プログラムへの参加者は、インドネシア全土の小学校教師、特に理科と体育に関わる教師、および、ボーイ/ガールスカウトの指導者の中から選ばれる。この指導者養成プログラムは、バンドゥン工科大学 (Bandung Institute of Technology) が、教育省の初中等教育総局 (the Directorate General of Elementary and Secondary Education of the Ministry of Education) との協力により、インドネシア都市防災プロジェクト (Indonesian Urban Disaster Mitigation Project) におけるアジア災害予防センターのアジア都市防災計画 (Asian Urban Disaster Mitigation Program) の一環として 1999 年から 2001 年にかけて作成および実施した。このプログラムは、UNICEF および UNESCO からの支援も受けた。2002 年より、バンドゥン工科大学の防災センター (the Disaster Mitigation Center) がこのプログラムの再構築と改良を行い、その後、教育省の包括的生活スキル教育プログラム (Broad-based Education Life-Skill Program) の一環として導入され、教育省の年間教育プログラムとなった。このプログラムにより、2005 年までに 700 名の教師/指導者が研修を受けた。プログラム参加者は、インドネシア全土の地震多発地域にある小学校および地域の公的教育部門の担当官から選出されている。

#### 指導者養成プログラムの目的

- プログラム参加者が、地震災害およびそれに関する防災準備活動、災害を予見するために必要なスキルについての知識を得て、理解を深められるようにする
- 教師が学校コミュニティと協力して学校の地震防災活動の計画を策定する上で必要なスキルを教え、指導する
- 学校コミュニティ内での情報伝達と意識付けをするため、また特に、生徒に地震に対する備えをさせるための教師/指導者のスキル向上

同プログラムにより、地震だけではなくその他の災害（人災も含む）に対する地域コミュニティの意識が高まり、学校の安全性が向上するという利点もある（多様な災害への取り組み）。この訓練では、様々な楽しい練習や実習が取り入れられており、従来の科学的な地震学習とは違った手法となっている。こうすることで、内容に対する生徒の興味と理解が増し、生徒が退屈したり怖がったりしないような工夫がされている。

この訓練プログラムの内容の1つに、地震災害、地震が特に学校の環境などの社会に及ぼす影響、および、学校コミュニティにおける地震防災についての知識とスキルを、建物や活動に関する学校の安全性という観点から説明するものがある。また、学校の地震防災プログラムの活動計画をどのようにして作成するかということも含まれている。

長期的には、この指導者養成プログラムによって国内の小学校での地震災害意識向上プログラムの内容が向上し、それによって、地震に対する学校の安全性の向上に貢献することが期待されている。



模型図を使い、学校の建物が地震に弱いことを参加者に説明



児童向けの地震防災訓練用教材の挿絵

## 背景

インドネシアは地震の多い国であり、住民の中でも学童は、地震災害時に最も弱者となるグループの1つである。地震に対する意識向上のためのプログラムを全国レベルで実施することが必要である。

## 目的

- 参加者に、地震災害と地震に対する防災活動および災害を予測するために必要なスキルについての知識を得て、理解してもらう
- 学校コミュニティと協力して学校の地震防災準備のための活動計画を作成するために必要なスキルを学校の教師に教え、指導を行う

学校コミュニティ内での情報伝達と意識付け、また特に生徒に地震災害への備えをさせるための教師／指導者のスキルを向上させる

## 期間

プログラム作成：1999-2001年、訓練実施：2001年より

## 実施活動内容

小学校での地震防災準備プログラムのための指導者の育成

## 主な活動

- 訓練カリキュラムおよび教材作成による意識向上プログラムの開発
- 試験的訓練

本訓練の実施

## 総予算

- プログラムおよび教材の作成用として約 30,000 米ドル  
全国の年間研修プログラムの運営用として年間約 15,000 米ドル

## 連絡先

バンドゥン工科大学防災センター (Center for Disaster Mitigation-ITB)

住所：PAU Building 8<sup>th</sup> Floor

Jl. Ganesa 10 Bandung 40132

電話番号：62 22 2504987 (内線：1819)、62 22 708 08949

ファックス番号：62 22 2504987; 2508125

Eメールアドレス：[pmb@kppmb.itb.ac.id](mailto:pmb@kppmb.itb.ac.id)

ホームページ：<http://kppmb.itb.ac.id>